短　報

日本紅斑熱の臨床所見に関する発生地域別多施設調査

[1] 馬原医院，[2] 亀田総合病院，[3] 伊勢赤十字病院，[4] 明神診療所，[5] 島根大学医学部附属病院，[6] 尾道市立市民病院，
[7] 市立宇和島病院，[8] 室戸病院，[9] 上天草総合病院，[10] 寺﨑皮膚科，[11] 肝属郡医師会立病院

馬原　文彦[1]　山藤栄一郎[2]　坂部　茂俊[3]　森田　裕司[4]
新原　寛之[5]　開原　正展[6]　薬師寺直喜[7]　船戸　豊彦[8]
和田　正文[9]　寺﨑健治朗[10]　山口　直喜[11]

（平成 26 年 10 月 17 日受付）
（平成 27 年 3 月 2 日受理）

Key words：Japanese spotted fever, erythema, eschar

序　文

日本紅斑熱は 1984 年馬原らの最初の報告[1]以来 30 年が経過した．本症は希少感染症であり一医療機関で多くの症例を経験する機会は少ない．このため臨床所見の地域別調査はなされていなかった．近年，症例も蓄積されてきたので，第 88 回日本感染症学会・第 62 回日本化学療法学会合同学会シンポジウム（福岡市，2014 年）に際し，日本紅斑熱の臨床所見についての地域別多施設調査を行ったので報告する．

対象と方法

日本紅斑熱の発生地および発生数を集計し，累積報告数が 50 例を超える県の臨床経験の多い医療機関を対象とした．発生数は，1984 年の初発例から 1998 年までは研究者による集計[2]，1999 年 4 月の感染症法施行以降は感染症発生動向調査週報（IDWR）より集計した[3]．調査は対象医療機関において主治医による 20 例の任意抽出，臨床所見各項目について回答を依頼した．調査は 2014 年 5 月 15 日～6 月 14 日に実施した．

結果および考察

累積症例が 50 例を超える県は 12 県あり，このうち回答を得られた医療機関の所属する都道府県を太枠で示した（Fig. 1）．発生地域は九州地方から東北地方まで 34 県におよび，西日本に多く発生している．臨床所見は回答症例数にばらつきがあるが，症例数はそのままの数字を提示し，地域特性を示すためそれぞれの項目の出現頻度をパーセントで表示した（Table 1）．平均値でみた主要所見としては，発熱では 37℃以上 99%，38℃ 以上 90%，39℃ 以上 66%，紅斑は 99%，刺し口は 69% であった．82% の症例で入院治療を要している．その他の症状として，悪寒 26%，頭痛 38%，嘔気・嘔吐・下痢 20%，リンパ節腫脹 7%，意識障害 6%，消化管出血 1% であった．

日本紅斑熱の主要臨床所見は，従来の報告のごとく[1)2)4)5)]「発熱」「発疹」は，ほぼ全例に見られ，マダニによる「刺し口」も 70% 前後にみられたことから，これらの所見を 3 徴候とするのは今回の調査において改めて妥当と思われた．しかし，「刺し口」は 50～95%，「リンパ節腫脹」は 0～100% と報告者により偏りが認められた．

本報告は主治医による任意抽出の調査であり診療した医師の生の臨床所見を記載する事を主目的とした．項目によっては結果に偏りがあるが，主治医の専門性や主観，症例選択の際のバイアスなども考えられ一概に地域差とは言い難い．臨床の場では，この結果を臨床所見の可能性の範囲として考慮すべきと考える．

臨床所見の地域差の考察を深める為には，発疹や刺し口の性状や部位，経時的消長，さらにはマダニの種類や分布などの研究も必要である．それぞれの地域に根ざした研究の進展を期待したい．

また，これまであまり注目されていなかった消化器症状について，本調査では地域や主治医により差はあるが平均 20% に認められた．消化器症状を主徴とする新興のマダニ媒介性感染症である重症熱性血小板減少症候群との鑑別に際して注意を要するものと思われる．

日本紅斑熱は入院を要する疾患（82%）であり，疾患の一定の重篤性を示すものであるが，本報告は抽出調査であり，重症度や予後の判断には更なる調査が必要と思われる．

利益相反自己申告：自己申告すべきものなし

別刷請求先：（〒779-1510）徳島県阿南市新野町信里 6―1
馬原医院　　馬原　文彦

Fig. 1　Geographic distribution and accumulated cases of Japanese spotted fever (1984-2014).
The squares show the prefecture and the number of cases accumulated over 50 cases.
Bold squares show the area investigated in this study.

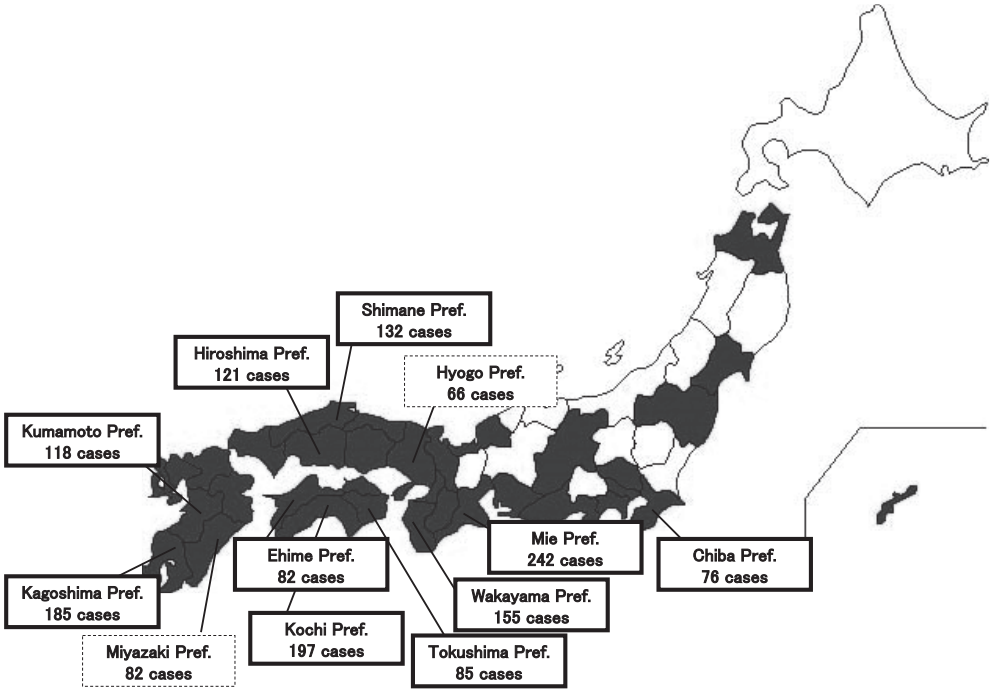

Table 1　Clinical manifestations of Japanese spotted fever

	Pref. (Cases)	*A (28)	B (20)	C (20)	D (6)	E (14)	F (20)	G (20)	H (20)	I (98)	J (26)	Total (272)
Fever	≦37℃	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	100%	99%
	≦38℃	89%	90%	100%	100%	100%	95%	100%	100%	83%	85%	90%
	≦39℃	63%	70%	65%	67%	86%	90%	90%	55%	57%	62%	66%
Erythema		100%	95%	90%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	99%
Eschar		83%	50%	75%	83%	86%	95%	75%	65%	58%	73%	69%
Chills		-	90%	25%	50%	36%	75%	20%	25%	3%	19%	26%
Headache		-	45%	45%	67%	36%	70%	40%	55%	17%	58%	38%
Nausea, Vomiting, Diarrhea		-	50%	20%	50%	14%	25%	5%	55%	5%	31%	20%
Gastrointestinal hemorrhage		-	5%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	1%
Confusion		14%	10%	20%	0%	7%	10%	10%	0%	2%	0%	6%
Lymphadenopathy		-	0%	10%	100%	21%	0%	5%	0%	0%	19%	7%
Hospitalization		93%	100%	20%	100%	79%	100%	85%	100%	90%	46%	82%

＊A, Chiba (Kameda Medical Center); B, Mie (Ise Red Cross Hospital); C, Wakayama (Myojin Clinic); D, Shimane (Shimane University Hospital); E, Hiroshima (Onomichi Municipal Hospital); F, Tokushima (Mahara Hospital); G, Ehime (Uwajima Municipal Hospital); H, Kochi (Muroto Hospital); I, Kumamoto (Kamiamakusa General Hospital); J, Kagoshima (Terasaki Dermatological Clinic & Kimotsuki-gun Medical Association Hospital)

文　献

1) 馬原文彦，古賀敬一，沢田誠三，谷口哲三，重見文雄，須藤恒久，他：わが国初の紅斑熱リケッチア感染症．感染症誌　1985；59：1165―72.
2) Mahara F：Rickettsioses in Japan and the far east. Ann N Y Acad. Sci 2006；1078：60―73.
3) 国立感染症研究所：感染症発生動向調査週報（IDWR），1999/01～2014/16（22）（http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html）.
4) Mahara F.：Synopses, Japanese Spotted Fever：Report of 31 Cases and Review of the Literature. Emerg Infect Dis 1997；3：105―11.
5) 坂部茂俊，中村晴奈，吉岡真悟，豊島弘一，山村賢太郎，柴崎哲典，他：日本紅斑熱14例の臨床経過．日内会誌　2009；98：383―7.

Clinical Manifestations of Japanese Spotted Fever : Multi-institution Study in Endemic Areas in Japan

Fumihiko MAHARA[1], Eiichiro SANDO[2], Shigetoshi SAKABE[3], Yuji MORITA[4], Hiroyuki NIIHARA[5], Masanobu KAIHARA[6], Naoki YAKUSHIJI[7], Toyohiko FUNATO[8], Masafumi WADA[9], Kenjiro TERASAKI[10] & Naoki YAMAGUCHI[11]

[1]Mahara Hospital, [2]Kameda Medical Center, [3]Ise Red Cross Hospital, [4]Myojin Clinic, [5]Shimane University Hospital, [6]Onomichi Municipal Hospital, [7]Uwajima Municipal Hospital, [8]Muroto Hospital, [9]Kamiamakusa General Hospital, [10]Terasaki Dermatological Clinic, [11]Kimotsuki-gun Medical Association Hospital

〔J.J.A. Inf. D. 89：490～492, 2015〕